れっつあにまろ

第三の蟲

天海ヒロ(福田博行)

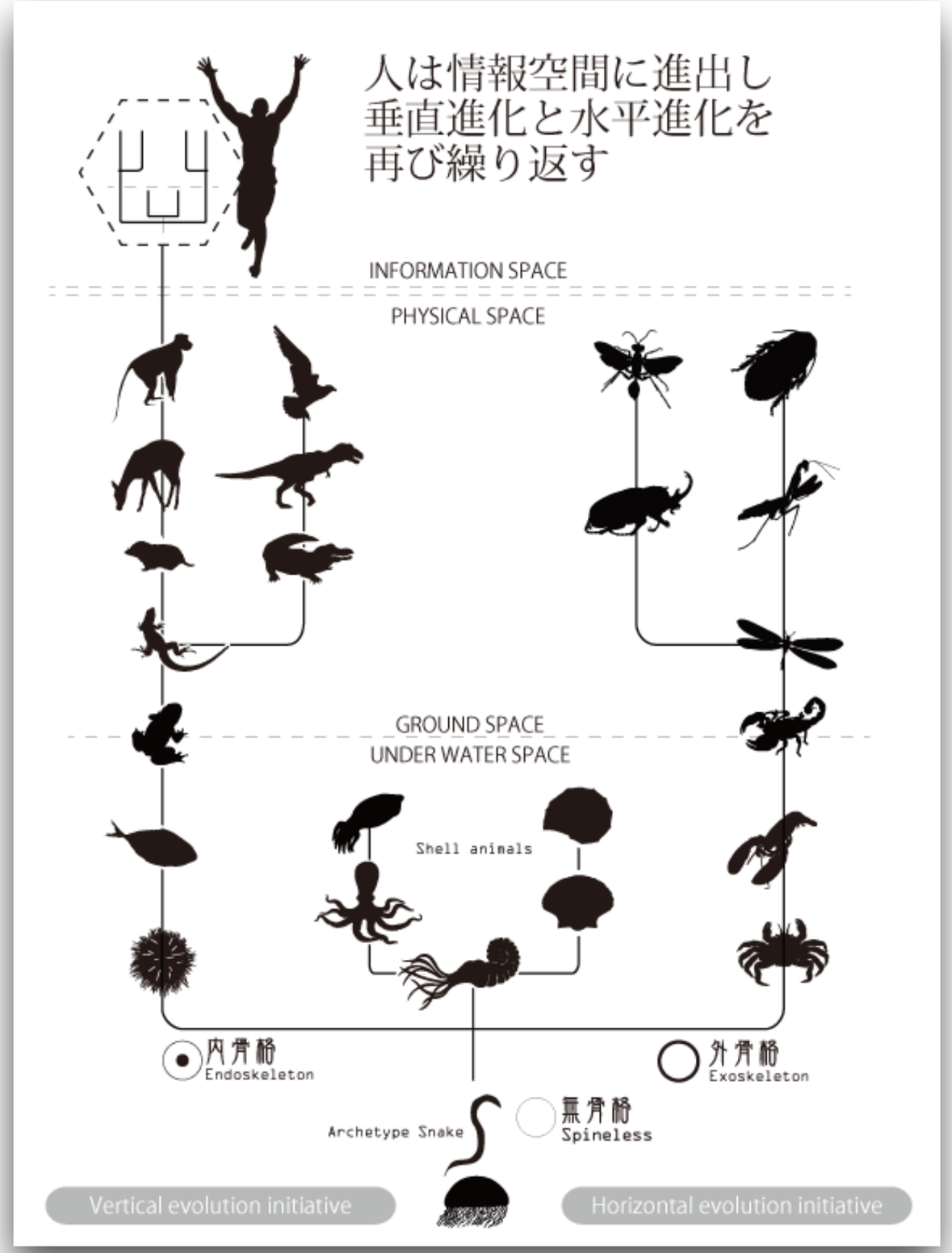
アニマンダラから見る蟲意識

内骨格と外骨格から見た蟲ども

虫ケラとは？

精神進化の系統樹

Animandala Explore



ANIMANDALA

シンカにミル・ココロのカタチ・シャエイ神化論

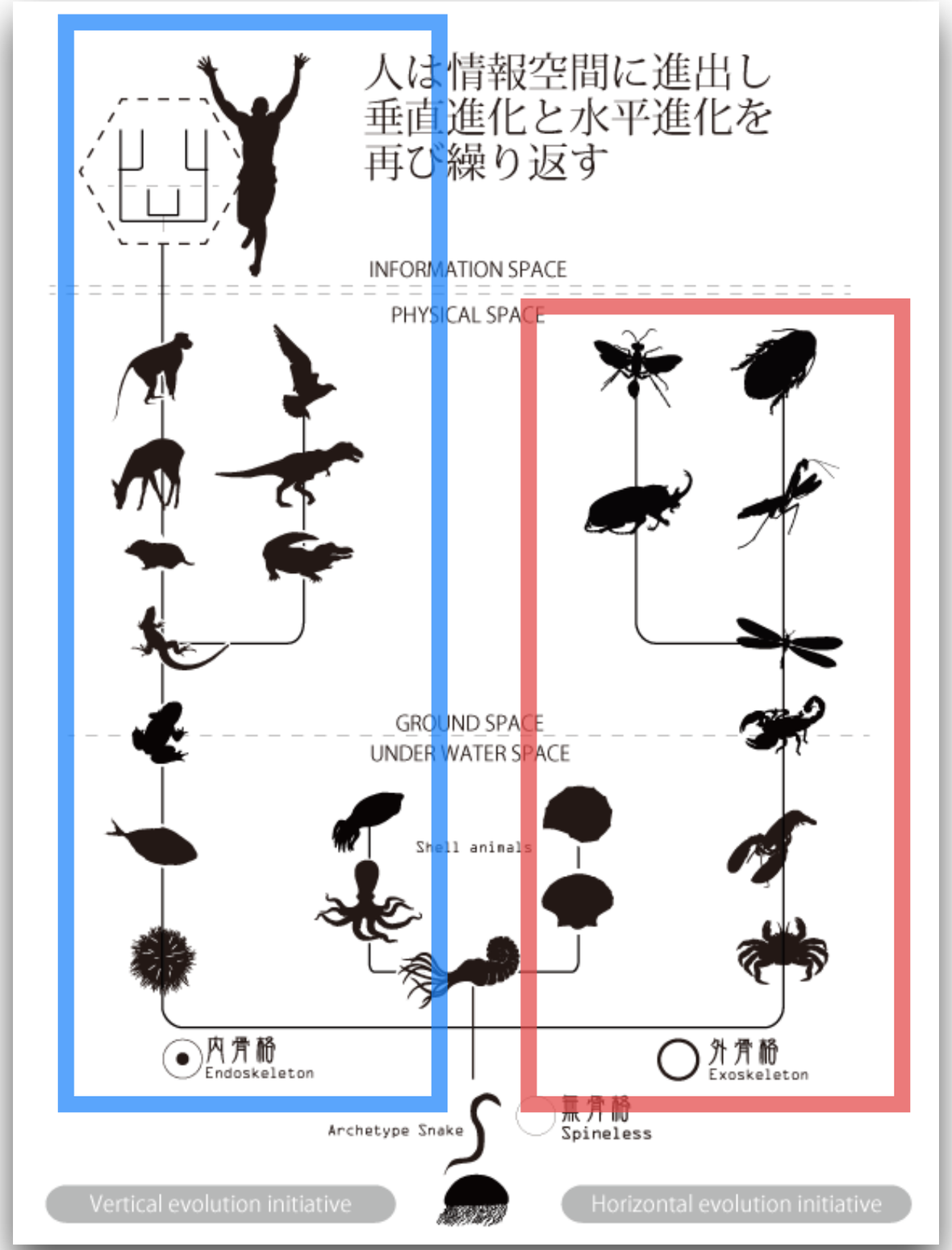
生物進化の系統樹をわかりやすく象徴化したものです。厳密なものではありません。

精神進化の系統樹

Animandala Explore

垂直進化
内骨格

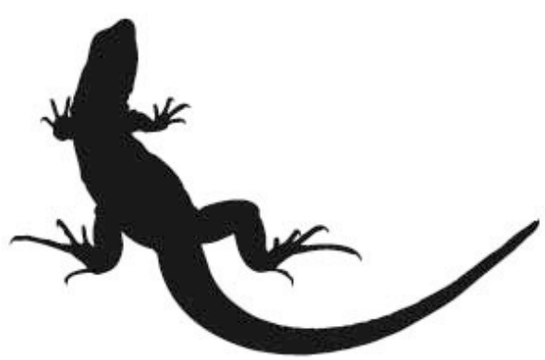
水平進化
外骨格



生物進化の系統樹をわかりやすく象徴化したものです。厳密なものではありません。

骨格による生命の二元性 水平進化と垂直進化

内骨格
内側が硬い



主に脊椎動物

世界が
反転している
◀ REVERSE ▶

外骨格
外側が硬い

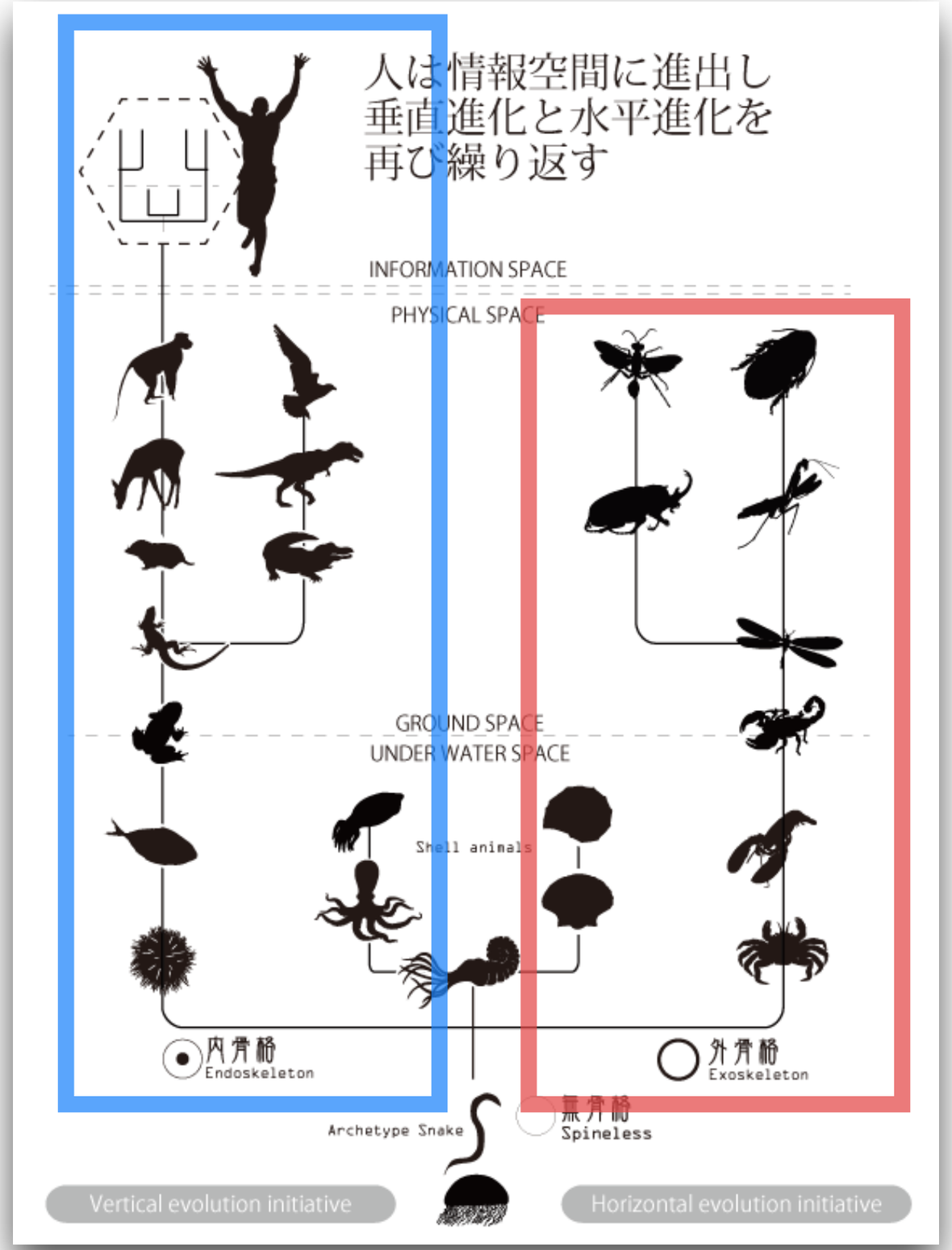
主に節足動物

精神進化の系統樹

Animandala Explore

垂直進化
内骨格

水平進化
外骨格



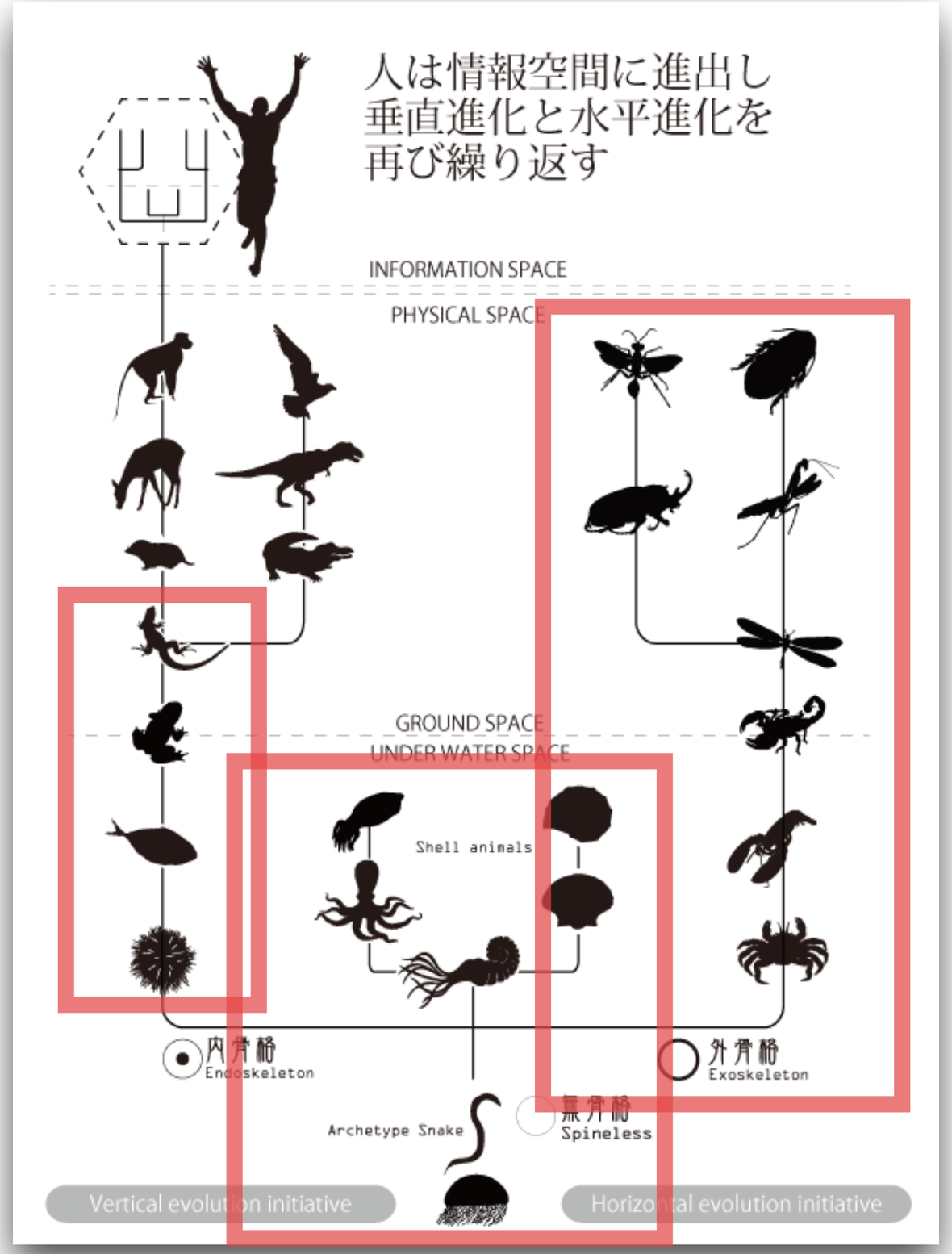
生物進化の系統樹をわかりやすく象徴化したものです。厳密なものではありません。

精神進化の系統樹

Animandala Explore

蟲の語源は生物全般を表します。しかし、博物学的な扱いや、民間の扱いの中で見て行くと、次第に獣=毛物を分けていたように見受けられます。
また、語源的にも虫の由来がマムシであったり、特に爬虫類と昆虫などの節足動物との結びつきが強く見受けられます。

ここでは、そこにラインを分けて、一般的に"蟲"として受け取られやすいもの達に焦点を当てて考察して見たいと思います。



蟲ども

生物進化の系統樹をわかりやすく象徴化したものです。厳密なものではありません。

水中と地上の意識

外骨格意識と内骨格意識は、互いにせめぎ合いながら多様な意識を作り出しました。そして、同時に空間的展開を繰り返し、水中から飛び出しました。

◉水中生態系意識

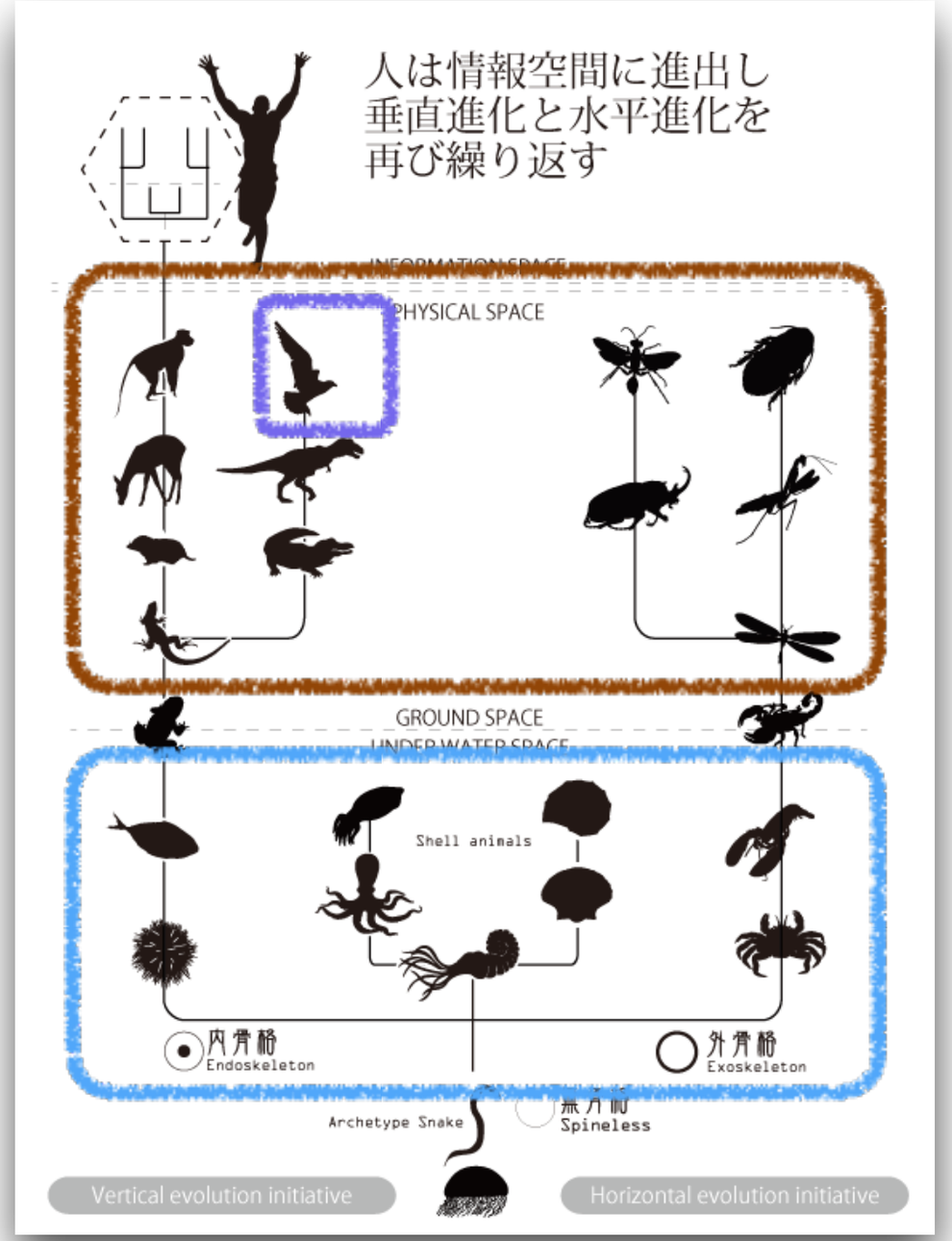
- 負荷のない世界、言語世界、観念の世界、無意識
- 仮想的、保護された意識、子供の意識

◉地上生態系意識

- 負荷のある世界、反重力、従重力、物理世界
- 自立意識、生き延びる意識

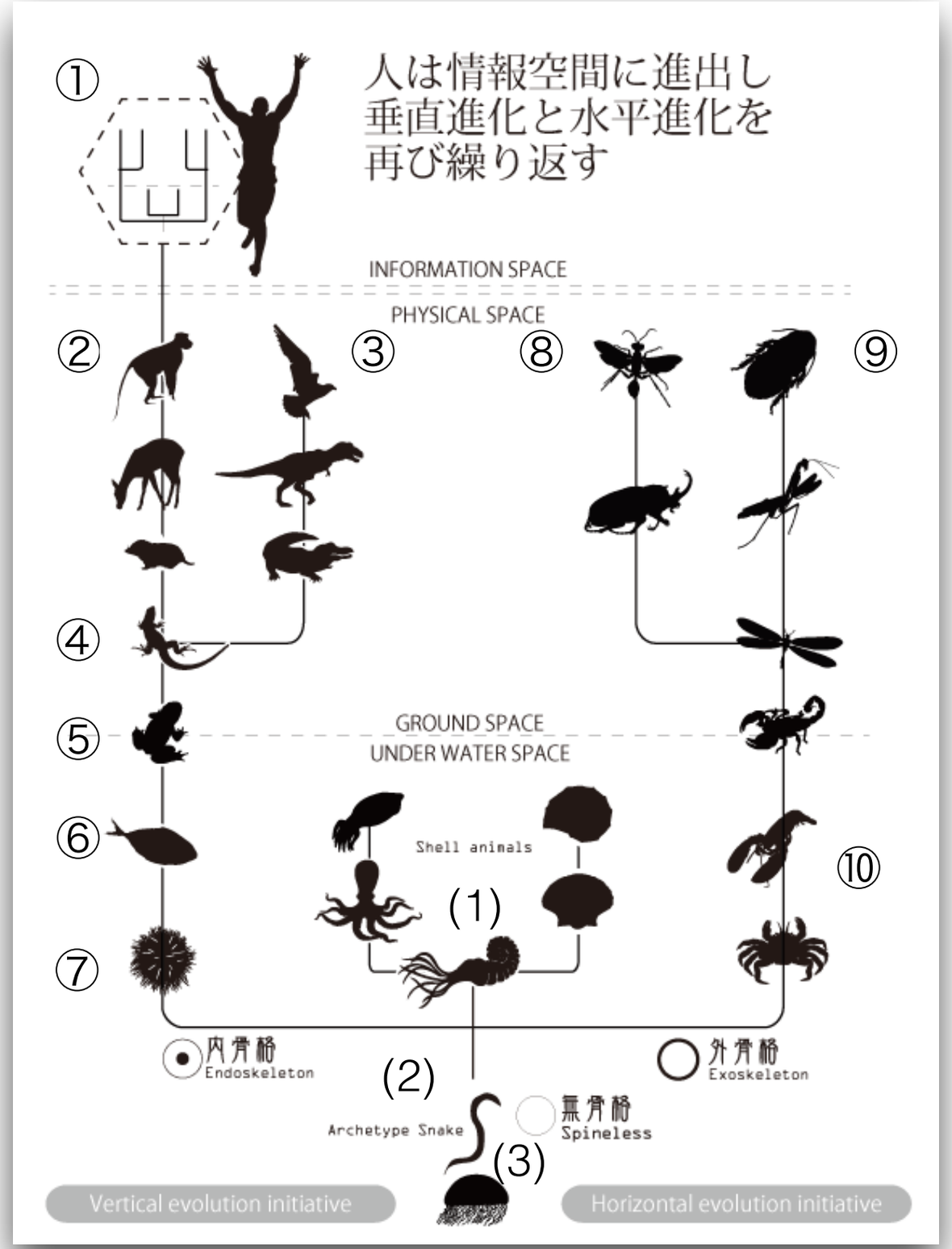
◉空中生態系意識

- 重力の超越、地上的負荷の超越、物理世界の超越



精神進化の系統樹

Animandala Explore

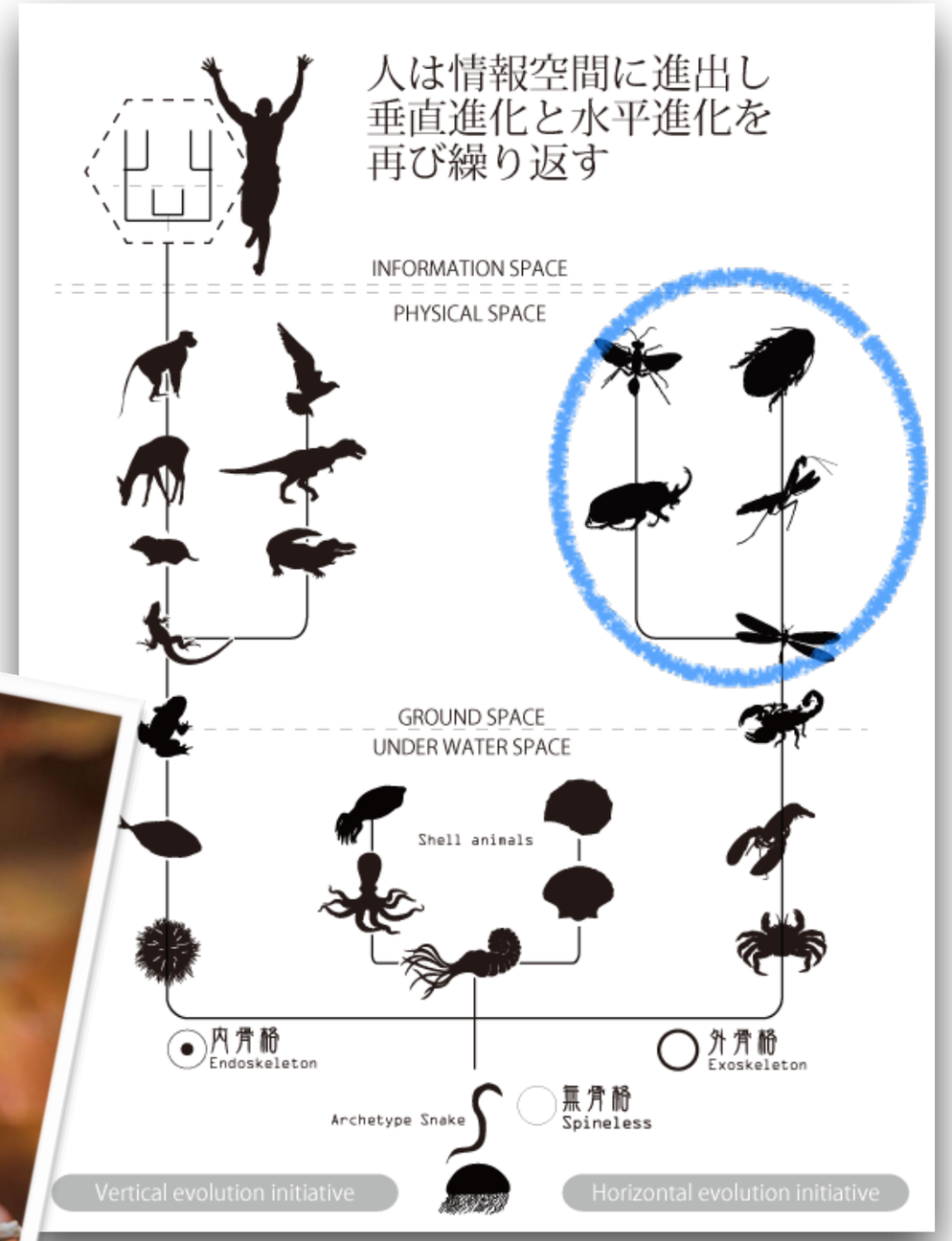


①人間
②哺乳類
③鳥類•恐竜
④爬虫類
⑤両生類
⑥魚類
⑦棘皮動物
⑧昆虫
完全変態の系統
⑧昆虫
不完全変態の系統
⑩甲殻類•鋏角類
(1)軟体動物
(2)線虫(蛇様動物)
(3)刺胞動物

昆虫意識は大衆意識

昆虫は地上にのみ生息する節足動物で、全動物の中で最も種類や生息数が多く、繁栄した動物です。

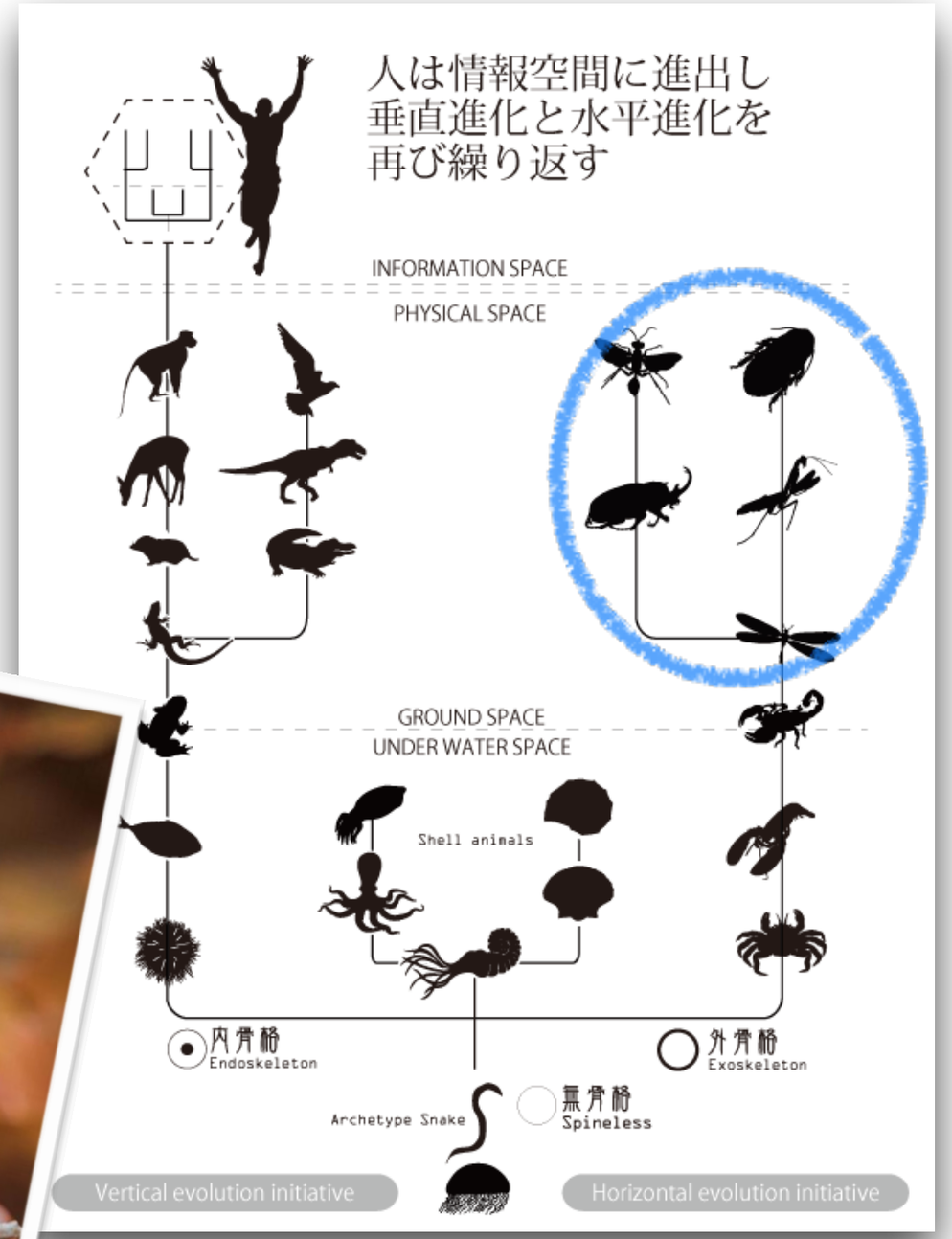
- 変温動物で外界に左右される、世界先手の生き方
- 水から出られない意識。観念世界と物理世界が分離していない。無意識が見えない。
- 個体意識が薄く、群体意識が強い
- 個体は脆いが、群体として強い
- 爬虫類を始め、多くの地上動物の栄養源



昆虫意識は大衆意識

昆虫は地上にのみ生息する節足動物で、全動物の中で最も種類や生息数が多く、繁栄した動物です。

- 生活者。大衆意識、群衆意識、労働者意識、
- 被害者意識、奴隷意識
- 主体性が確立していなく、外部環境や他者の眼差しに意識の焦点がある状態。
- 昆虫は生態系を支え大地を耕す二次生産者。
- 大衆、労働者は社会を支え社会を耕す基盤。

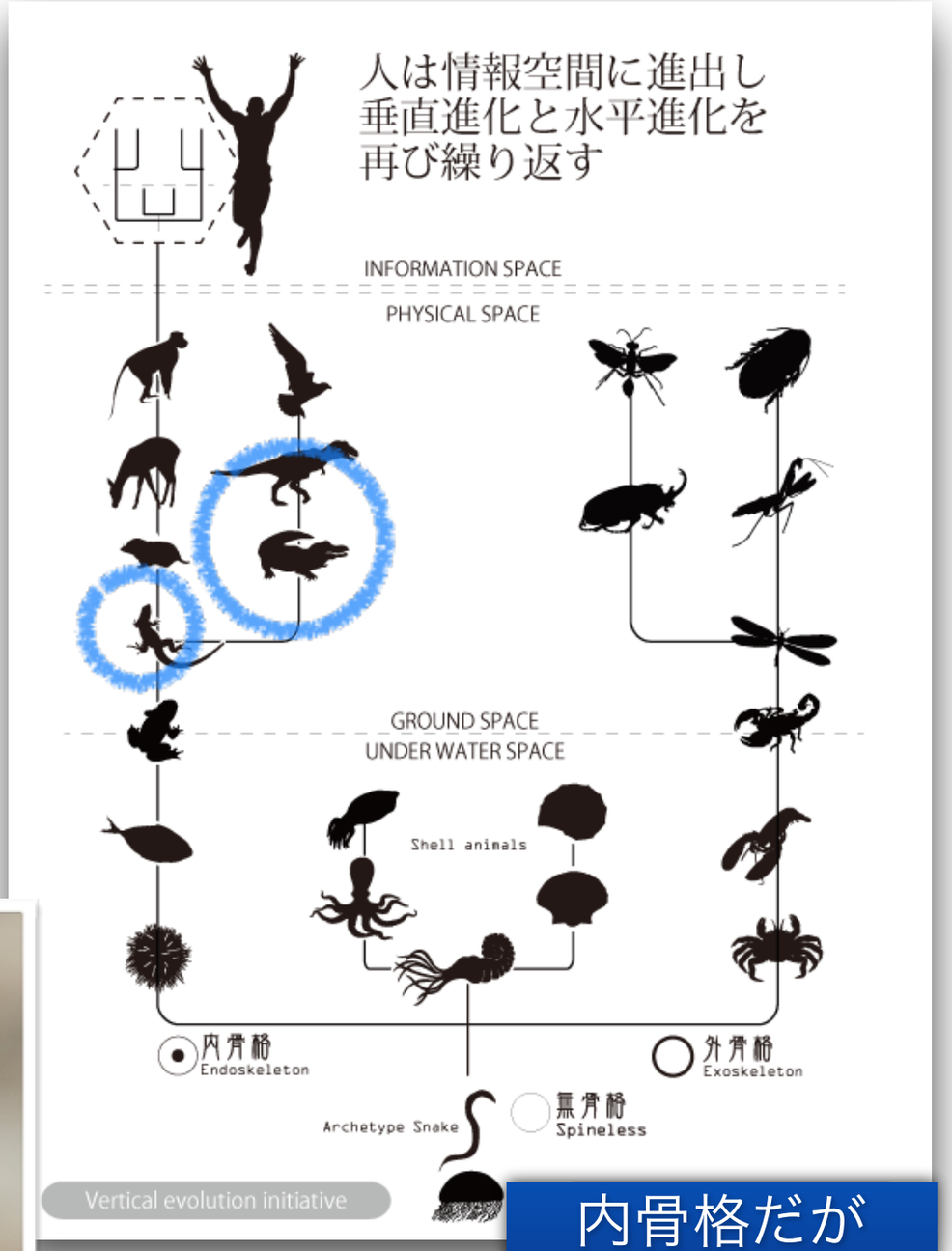


爬虫類意識は内骨格意識と外骨格意識を交差する

爬虫類は内骨格で始めて地上に適応した動物。重力や乾燥、気温変化など環境変化を全身で受け止める為、内骨格ですが生き延びることに焦点化し、意識が外部に向かいます。つまり外骨格的側面があります

- 個体意識が強く、生き延びる事を優先
- 内骨格だが昆虫と同様地を這う存在
- 昆虫などをその糧としている
- 大衆から奪うもの。管理者。

経済的支配者(恐竜•ワニ意識)



内骨格だが
垂直性を見失う

爬虫類と昆虫の類似性と差異

蠢くもの達

類似性

大地を這うもの。蠢くもの。大地にに叩きつけられたボディープラン。重力に従属する意識。爬虫類の「爬」の字は「地を這う」の意味を持つ。

変温動物➡環境に行動が決定的に左右される。
身体間感覚が平面的➡三次元性に対する二次元生。
二次元に閉じ込められた意識➡高次元に対する三次元性のメタファー。四次元時空にとじ込められた意識

生活に、生きることに、この世界に閉じ込められ、日々生きている、生き抜いている者たちとしての私たち自身の姿の反映、鏡

水中から地上へ

進化と次元上昇(外骨格)

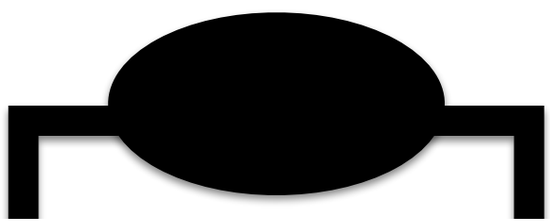
地上は水中の延長。
合理的適応で、物理空間に変化があっても、認識世界の変化は延長的。認識が変わらない。四次元時空に閉じ込められた意識の反映。
健在意識と潜在意識の差異が見えない

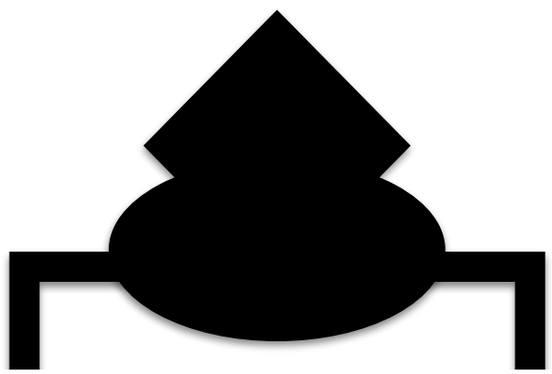
爬虫類と昆虫の類似性と差異

差異性

昆虫など、外骨格動物は水中の甲殻類と身体構造が基本的には変わりません。動物の身体は認識様式を決定します。水中は、重力という負荷がないことや、伝統的シンボリックな解釈などで、無意識としばしば結びつけられます。外骨格は無意識と顕在意識の区別がなく、無意識は言葉どうり潜在化していること言えます。
また、昆虫は爬虫類と同様、地を這うものですが、体が小さいため、重力負荷が小さく、空気粘性が働いているので、重力を自覚していません。彼らは飛ぶのではなく空中を泳ぐのです。一方、爬虫類は内骨格動物として初めて地上に適応し、全身に重力を感じています。内骨格動物は顕在意識と潜在意識が分離しています。爬虫類は、体は重力に叩きつけられていて二次元的ですが、頭をあげて、頭部だけ三次元的(ヘビの鎌首など)。もたげた頭で昆虫を襲います。

蠢くもの達のボディ➡



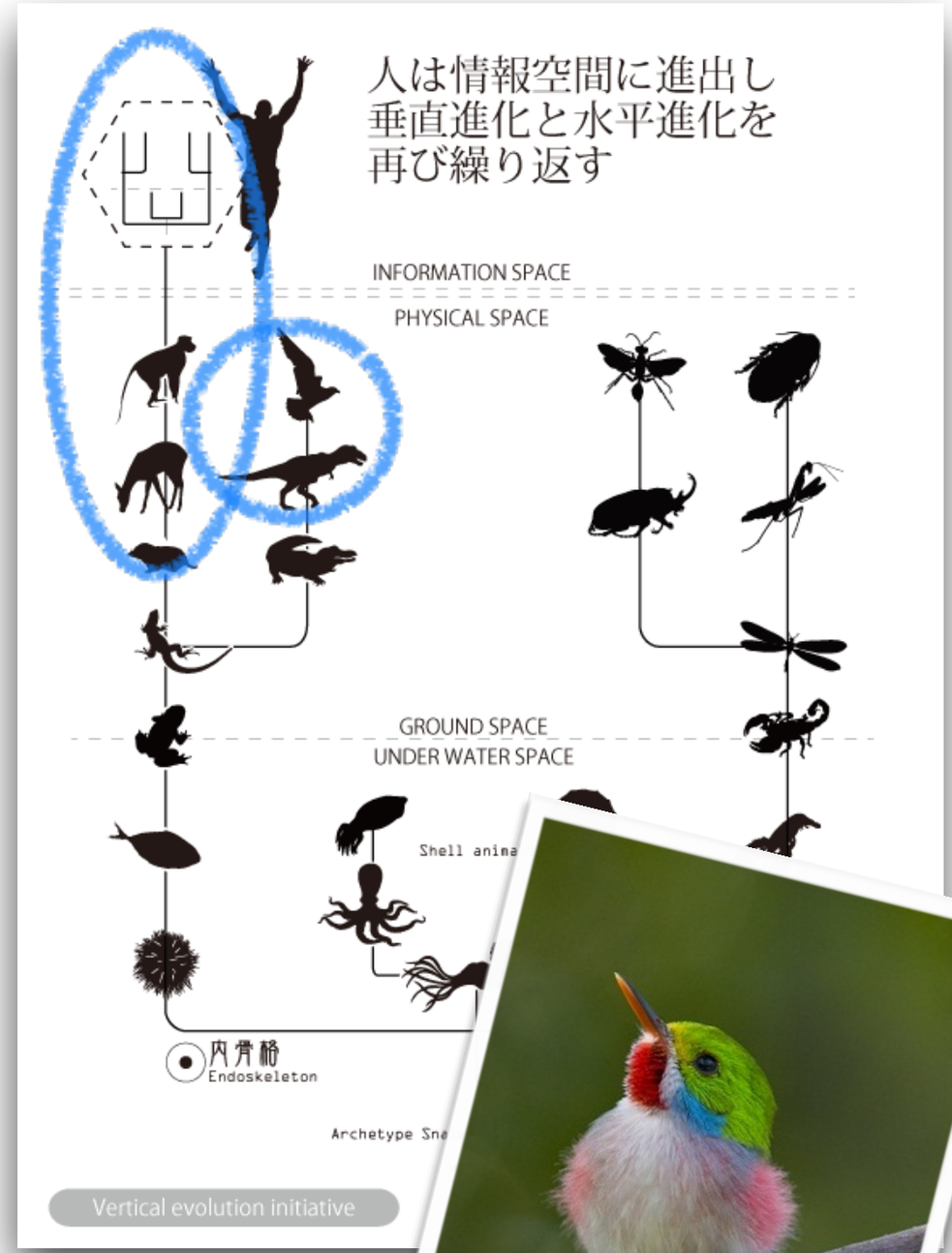


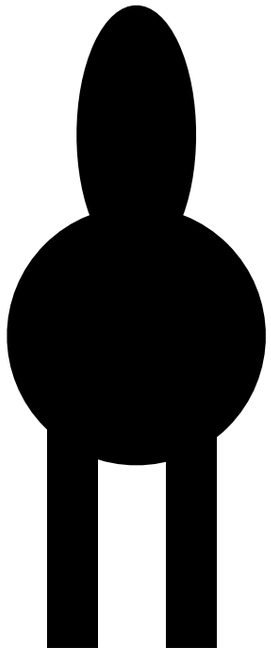
蟲じゃない人々=恒温動物意識とは

内骨格進化の一つ特徴に、外部を内部に取り込むというのがあります。内温性になることで、外気温(太陽)を取り込みました。これは生命史上画期的なことです。このことにより環境依存度が低下しました。

- 外部環境の影響が小さい。冬でも活動可能
- 活発で血流も多く、脳を大型化
- 進化が進むと言語を持つ
- 生存に縛られなくなり始める。

- **他者や社会、周囲に左右されず主体的に生きる**
- **体温と育児=愛情、情愛**
- **無駄なこと=遊び心**
- **多彩な鳴き声=言語化 コミュニケーション**
- **遊び心と愛情のある経済的自由人**





蠢くものとしての蟲

地上を自由に闊歩できない、
変温性の生き物

▼

蟲意識

- 潜在意識の住人➡水中の外骨格、無骨格動物意識
- 物理世界、生活世界に縛られた意識
- 大地を耕す存在、二次生産者

不思議な蟲物語

虫の知らせと、メディスンアニマル

虫の知らせ

【意味】 虫の知らせとは、よくないことが起こりそうな気がすること。悪い予感。

【虫の知らせの語源・由来】

虫の知らせの「虫」は、古く、人間の体内に棲み、意識や感情にさまざまな影響を与えると考えられていたもので、潜在意識や感情の動きを表す。
「虫がいい」「腹の虫が治まらない」などの「虫」も、この考えから生じた語である。
これら「虫」の付く言葉の多くが悪い事柄に用いられるのは、生まれた時から人体に棲み、人が眠っているすきに体内から抜け出して、その人の罪悪を天帝に知らせるという道教の「三尸（さんし）・三虫（さんちゅう）」に由来するためと考えられる。

引用 言語由来辞典
http://gogen-allguide.com/mu/mushinoshirase.html

【虫の知らせ】とウニヒピリ

虫の知らせは、一般的に悪いことにまつわる予感ですが、無自覚な危機回避に関しての直感とも言えます。また、潜在意識のサインとみなすことができます。あるいは、腹の虫、虫がいいなどの記述から、感情とつながり、理性でコントロールできない衝動や感情の爆発、奇妙な行動、病の源泉(病は気から、など精神からくる病を含む)などなどと結びつけられて来ました。それらは内なる虫が原因とされて来ました。ですから、虫の知らせとは、"内なる虫のサイン"として理解することができます。

ハワイシャーマニズムの、内なる子どもとされるウニヒピリは、動物意識としても表現され、感情や直感、過去の記憶による引き寄せなどと関連付けられています。また、ウニヒピリと円満な関係を持てていないとき、人はしばしばコントロールしがたい、感情的衝動に振り回されます。ウニヒピリは、自分の存在に気づいてもらおうと、問題=凶事を引き寄せます。癪が蓄積して病となる、日本の蟲の考えとどこか通じないでしょうか？
"虫の知らせ"の虫を突き詰めて行くと、虫とは自覚化されていないウニヒピリそのもの。あるいは、ウニヒピリを源泉とする、ある種の知覚様式とみなすこともできるかもしれません。

メディスンアニマルとしての【虫の知らせ】

虫の知らせ、リアルバージョン的な？

メディスンアニマルは、パワーアニマルとも言われる、ネイティブアメリカンなどの先住民の霊的智慧。文化。
自分の生活圏に存在する様々な動物たちを、ある種の精霊とみなし、その振る舞いから、生きていく上での知恵や高次のメッセージを受け取ります。ガイドであり、守護者、人生の傷を癒す治癒者として動物達を受け止めるものです。

あらゆる動物たちがメディスンアニマルとして振る舞うので、虫に纏わる伝承も多くあります。
日本の"虫の知らせ"は実在の虫ではないですが、虫のメディスンは、実際の虫が様々なことを"お知らせ"してくれます。

メディスンアニマルとしての【虫の知らせ】

虫の知らせ、リアルバージョン的な？

【虫メディスン全体の意味】

虫は世界中に広く分布し、身近な存在です。そして、日々を生きていく生活者の象徴です。最も身近で、生活に密着したものたちとしてのメッセンジャーです。

世界に閉じ込められ、生活し、日々生きている、生き抜いている者たちとしての、私たちの姿の反映、鏡でもあります。

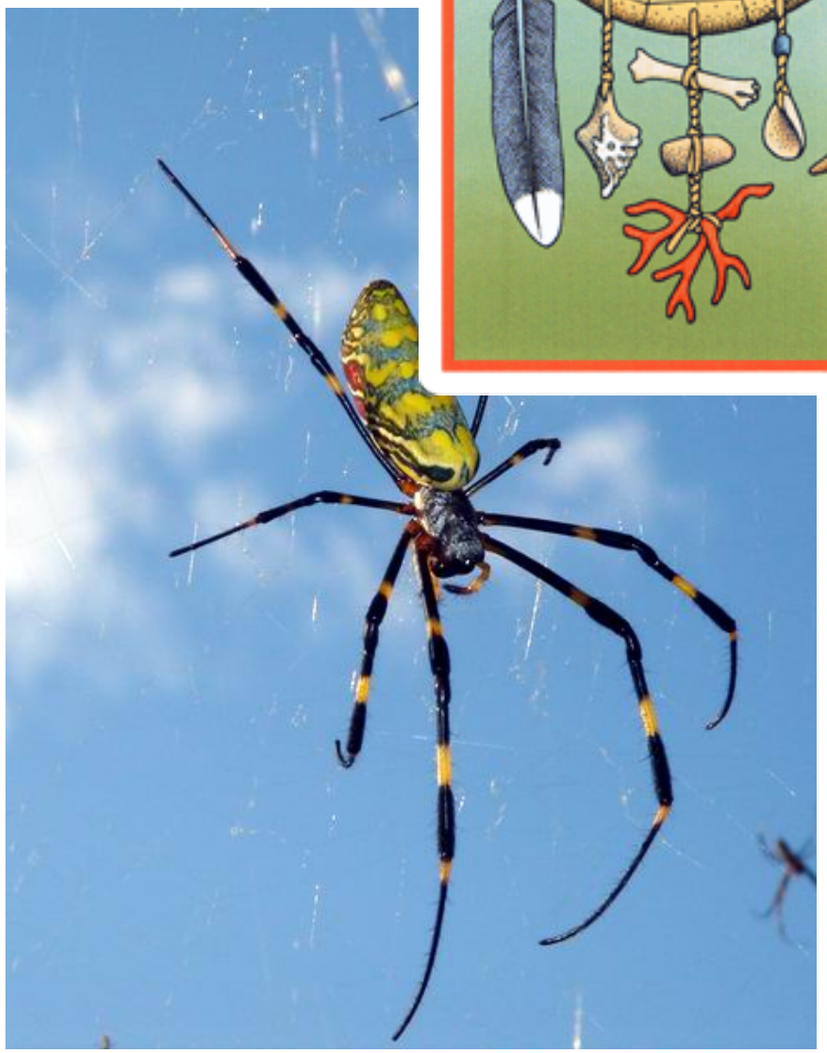
世界に閉じ込められている私たちへ、そこから動き出し、自由になるために、内部から外部への気づきを与えるための、メッセンジャー。しばしば恐れの象徴になるのと同時に、それを乗り越える方法を暗示するものです。

本質が見えないとき、また、人生の様々な原因を外部要員にしか見られないなら、凶兆としてしか受け止められないかもしれません。

蜘蛛のメディスン

スパイダー…
喜びの巣を織る者　平和な世界を作り出しておくれ「創造」を抱いて風に舞うクモの巣よ

・8の字の体は、∞、8など数を表すとされます。
・バランスと完全性
・模様は文字を意味し、数と文字で、巣=世界を紡ぐ
・言語と数で作られた、言語世界の創造者。物語の紡ぎ手。概念を生み出すもの。
・トナールの創造者であり、ナワールに立ちトナールを見渡すもの。
・巣に捕まる虫は、世界のありようが見えずに、言葉や概念、自分の世界に雁字搦めになったものの姿
・蜘蛛はその巣に捕まることはない。
・糸を紡ぎ糸を切る。束縛とそこからの自由の象徴
・巣はヌーソロジーにおける内面。巣を取り巻く世界が外面



コガネムシのメディスン

・コガネムシなどの甲虫は、太陽、黄金との結びつきが強い。
・黄金虫。基本的には、フンコロガシである、スカラベとして読み解くことが多い
・フンコロガシが東からに西へと転がす糞は、太陽とされます。横道を運行するもの。太陽の周期。死と再生をあらわします。
・成長のシンボル。古い周期が終わり新たな人生の幕開けを暗示。
・過去の自分を取り戻す時や、脱ぎ捨てるタイミングの暗示

トカゲのメディスン

トカゲは暑い日中、岩陰で休むことから、白昼夢を見ます。また、平面的な体に対して首をもたげた姿勢は、低次元と高次元の橋渡しを暗示します。そして、地面に密着した身体は細かな振動を見逃しません。長い尾は巧みにバランスを取ります。

こうしたことから、昼でも変性意識に入り、夢を見ること。インスピレーションを得ること。感受性の鋭さ。本能に耳を傾けることを象徴します。また、明晰夢に注意を払い活用することを促します。

尻尾きりは、時には人と距離を置くこと、志を貫くためには、世俗を離れることなどを暗示します。

ハチのメディスン

・女王蜂を中心とした社会性、受粉と針から、性と多産の象徴

・花を受粉し、捕食者として生態系を整え、蜜を集めることから、二次生産者の代表格

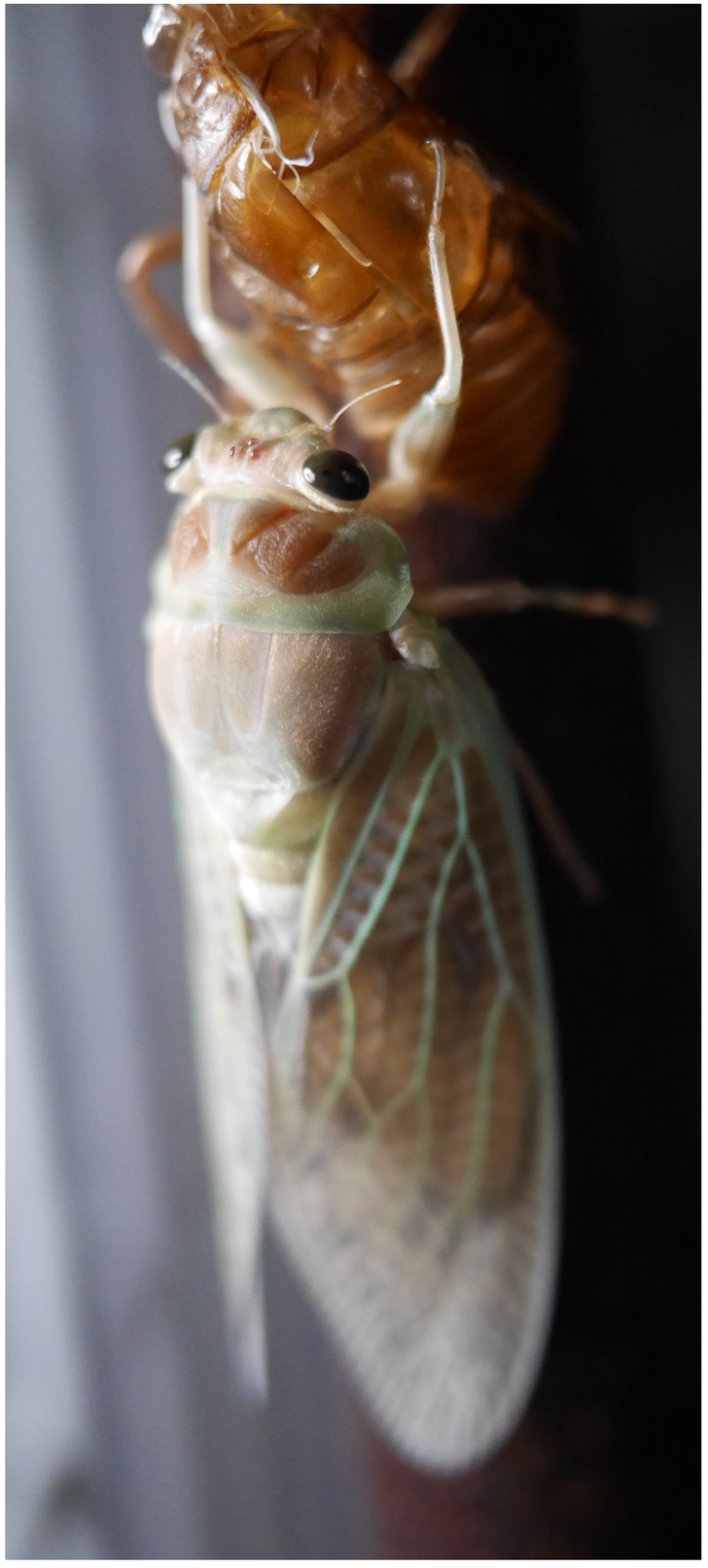
・勤勉な働き者として、アリと同様のメディスを持ちます。生産性を検証せよというメッセージかもしれません。

・コツコツ歩めば叶わぬ夢はなく、蜜を味わえる

・女系社会

セミのメディスン

・昆虫を代表する長寿
・人生の大半は土の中で一人
・ゆっくり成長し、やがて日の本で歌いきる。
・成虫になれたものは、全て生き切った存在
・夏の合唱は、人生最初で最後の晴れ舞台
・準備を十分することと、時が来たら全力で表現することの必要性を暗示
・恋しそれを表現し伴侶を娶ることのシンボル



スズメガのメディスン

オオスカシバなど、スズメガは、ハチドリと収斂進化し同じ生活様式を持ちます。それゆえ、スズメガは外骨格、ハチドリは内骨格であっても、同じメッセージをもっていると考えられます。ハチドリは中南米の限られた地域にしか見られませんが、スズメガは広く分布しています。昆虫のアニマルメディスンは、より身近で、生活に寄り添ってメッセージを与えると考えられます。なお、ハチドリは、花から花へと軽妙に自由に飛び回る美しい姿から、喜びと美にいきることの素晴らしさと、そのデリケートさを伝えます。ハチドリメディスンは花の秘密を開き、愛と美と喜びを振りまきダンスしますが、粗野な態度では花開きません。純粋性が大切なのです

ゴキブリはなぜ怖い？ゴキメディスン

2g、人の2000分の1の彼らがなぜ怖い

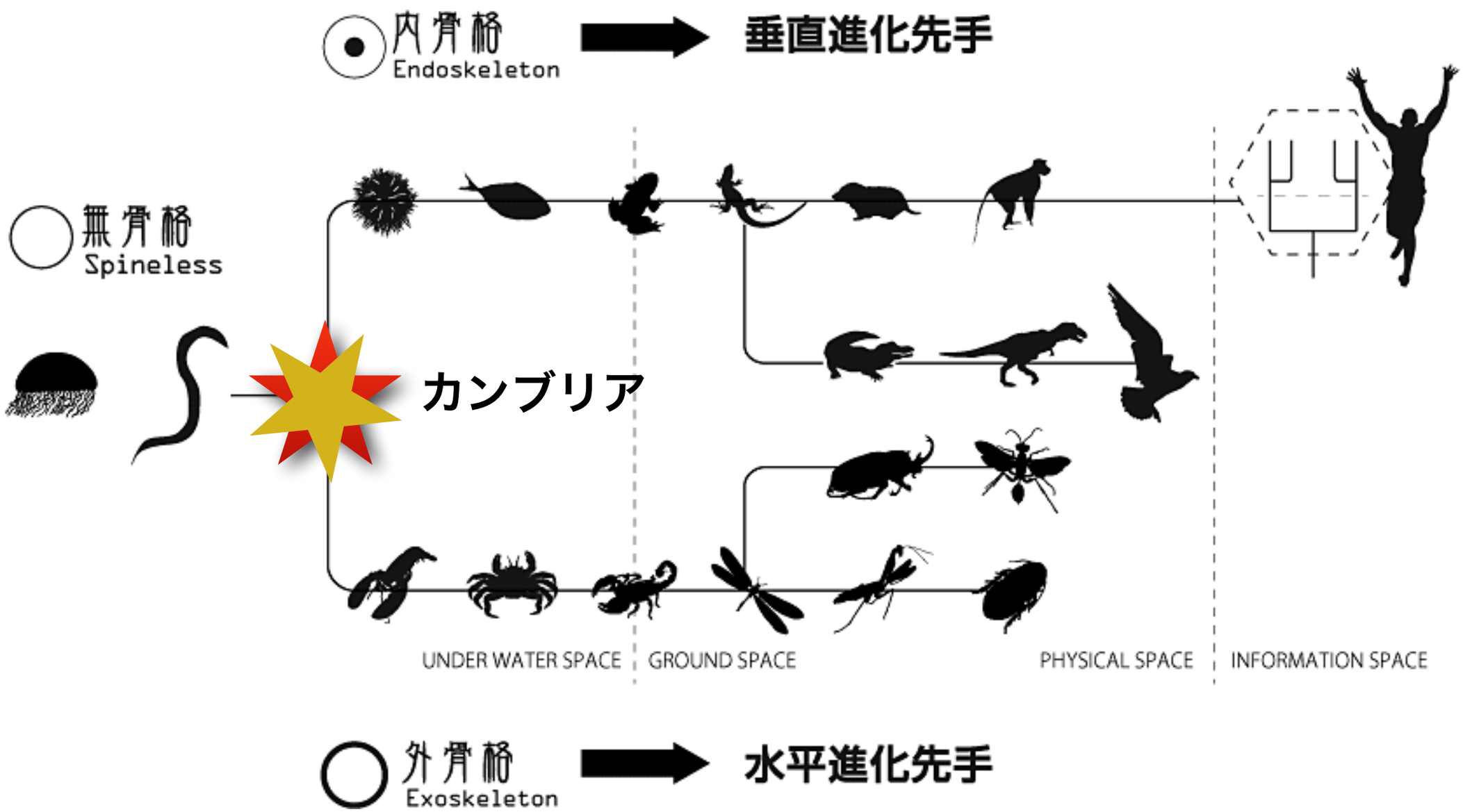
- 外骨格に追い回された記憶➡トラウマ
- どこにでも潜む、闇に潜む
- 黒い➡闇の住人
- 増える
- 向かってくる➡トラウマ
- 完全外骨格➡人間との対極、反対
- 予測できない
- ３度の大絶滅を乗り越えた➡死なない

メディスンアニマル的には

『無意識の恐れ』

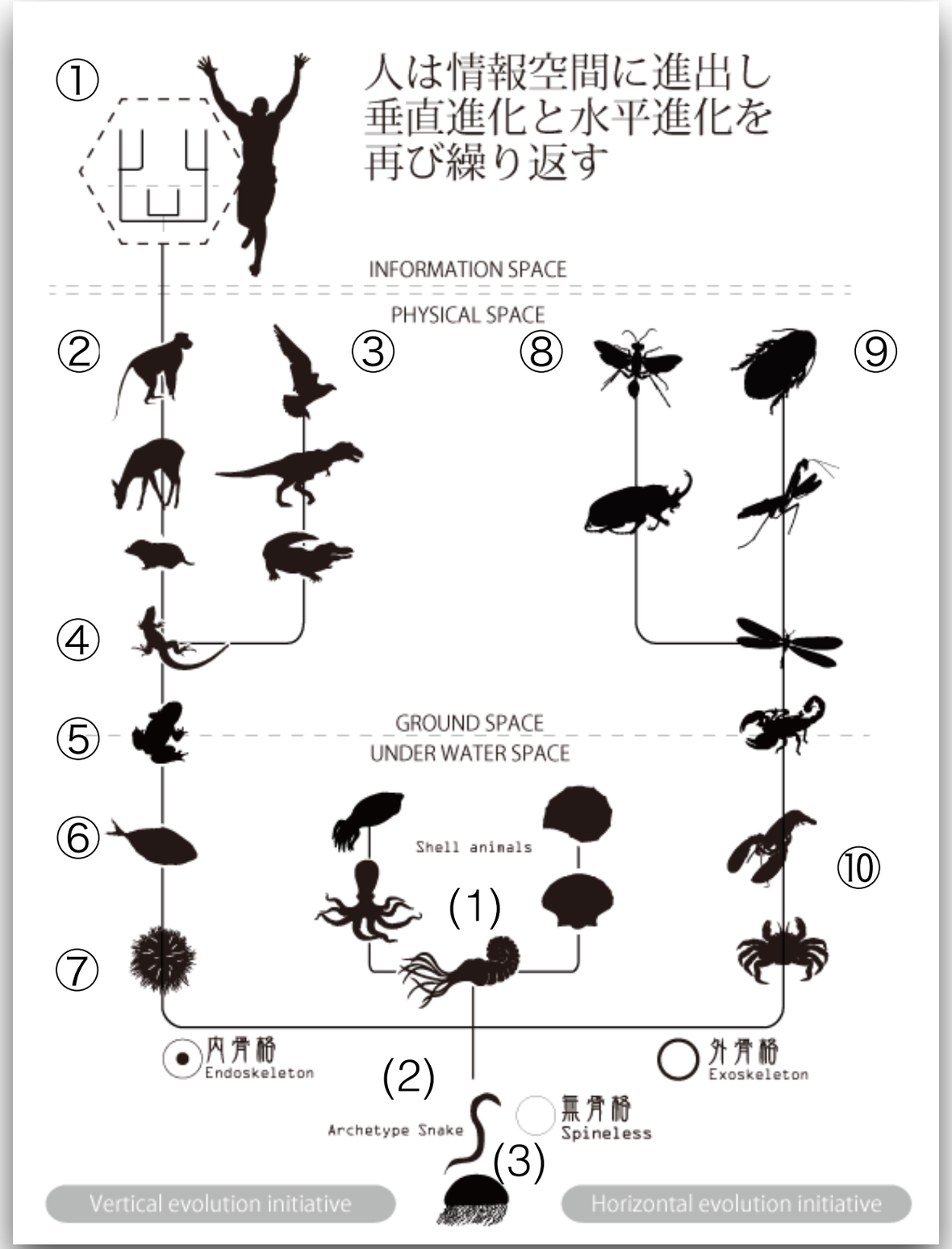
精神進化の系統樹

Animandala Explore



精神進化の系統樹

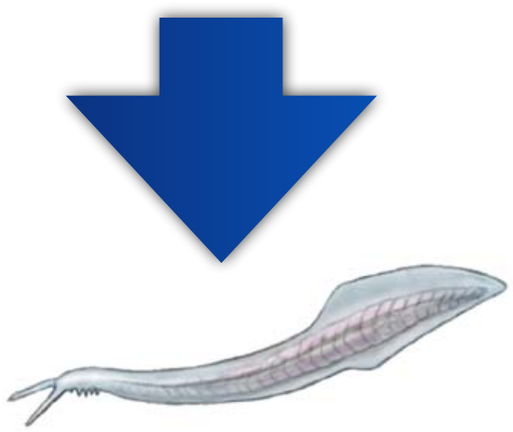
Animandala Explore



①人間
②哺乳類
③鳥類•恐竜
④爬虫類
⑤両生類
⑥魚類
⑦棘皮動物
⑧昆虫
完全変態の系統
⑧昆虫
不完全変態の系統
⑩甲殻類•鋏角類
(1)軟体動物
(2)線虫(蛇様動物)
(3)刺胞動物

Ancient King & Human Roots

<カンブリア紀>

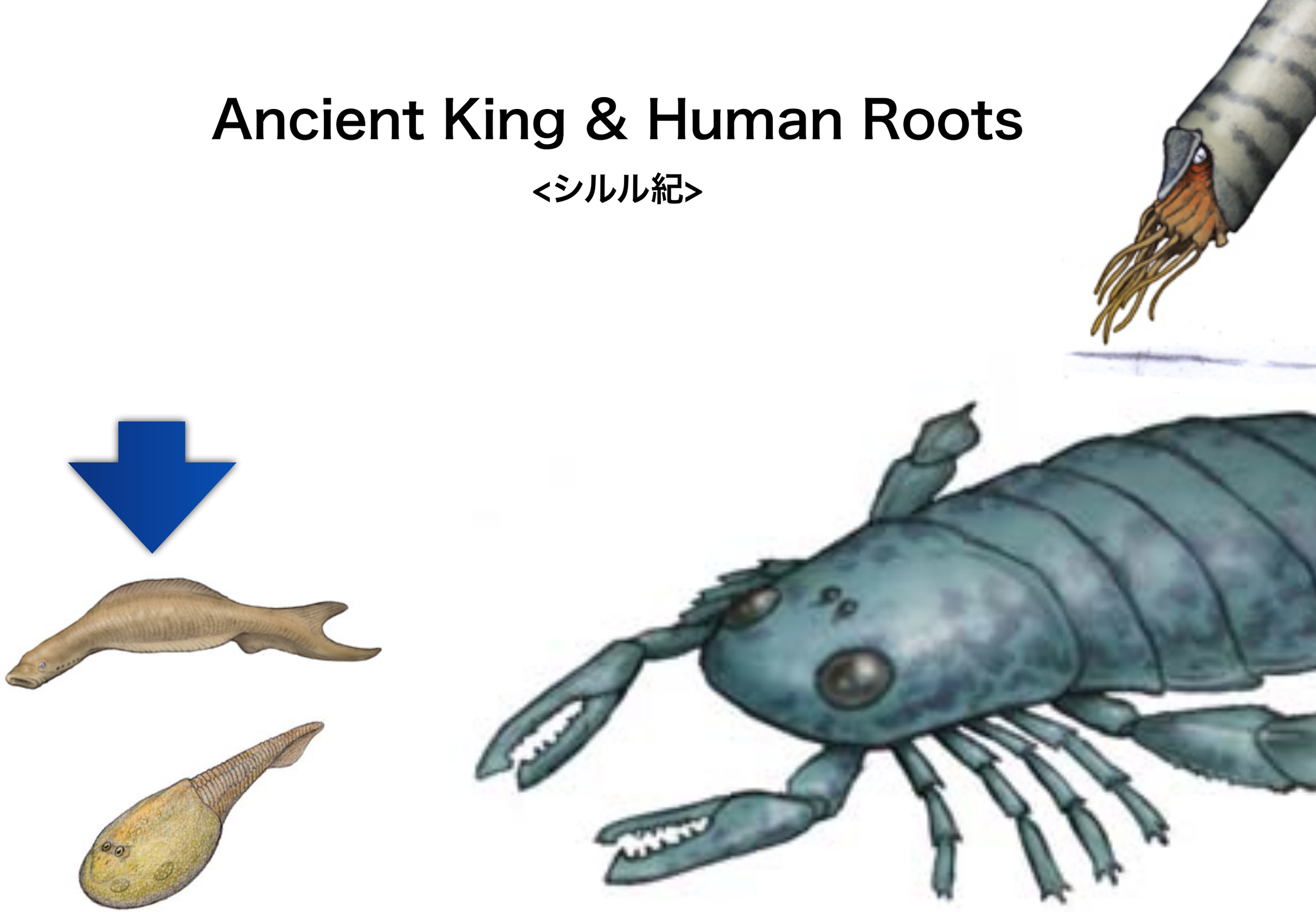


Ancient King & Human Roots

<オルドビス紀>

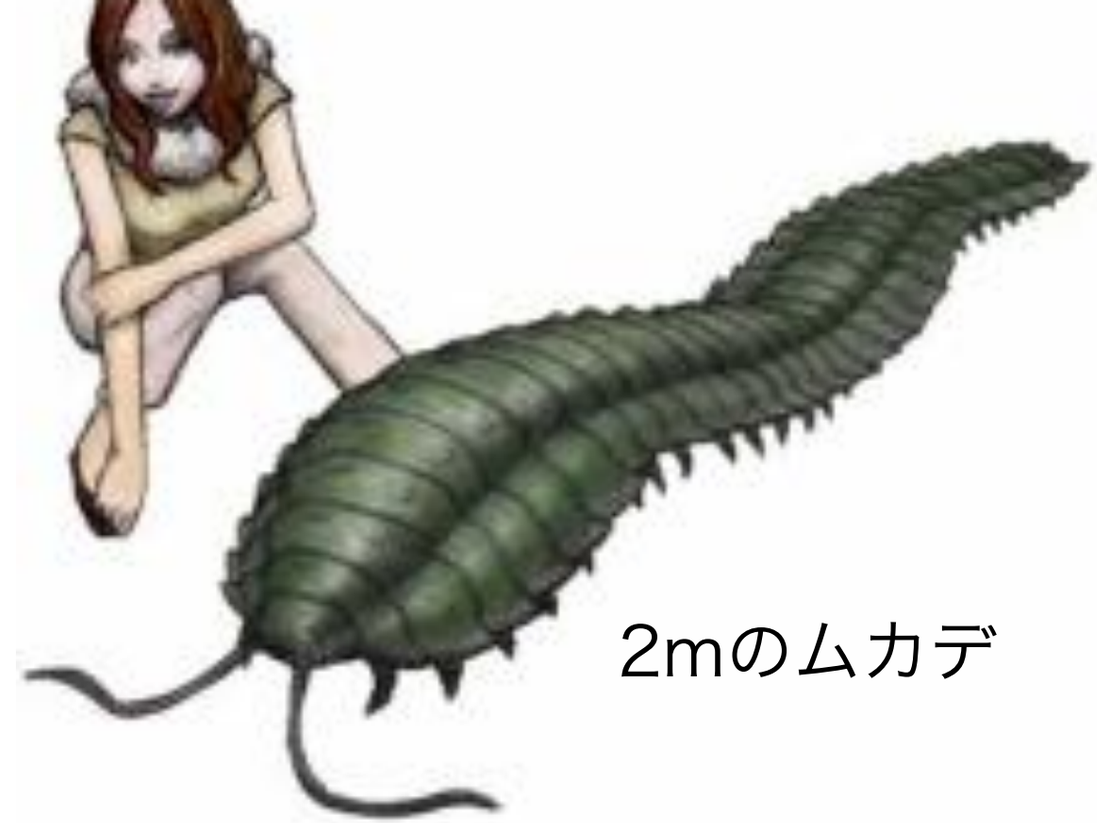
Ancient King & Human Roots

<シルル紀>

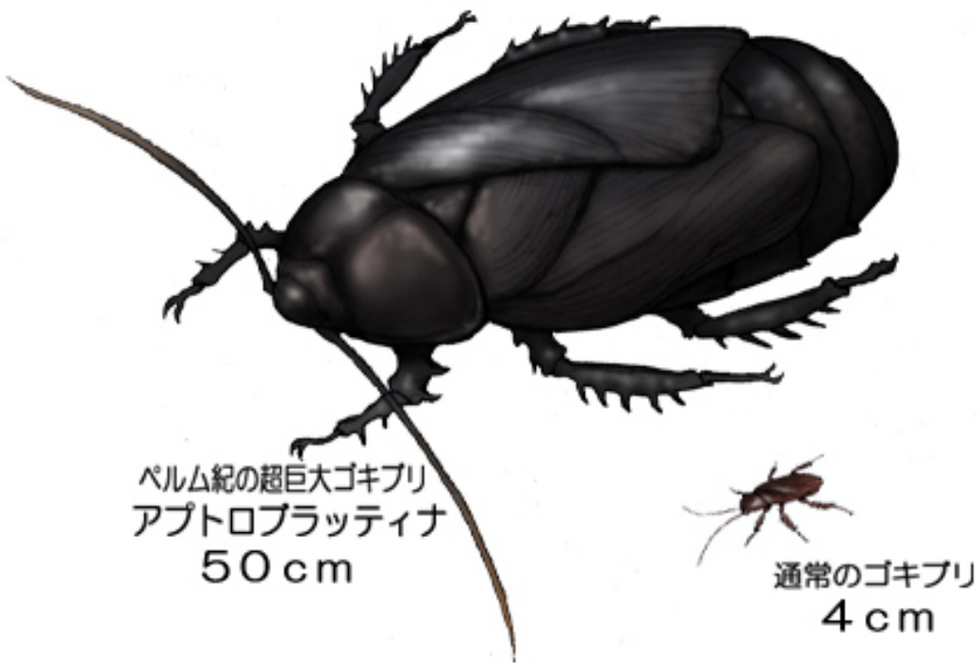


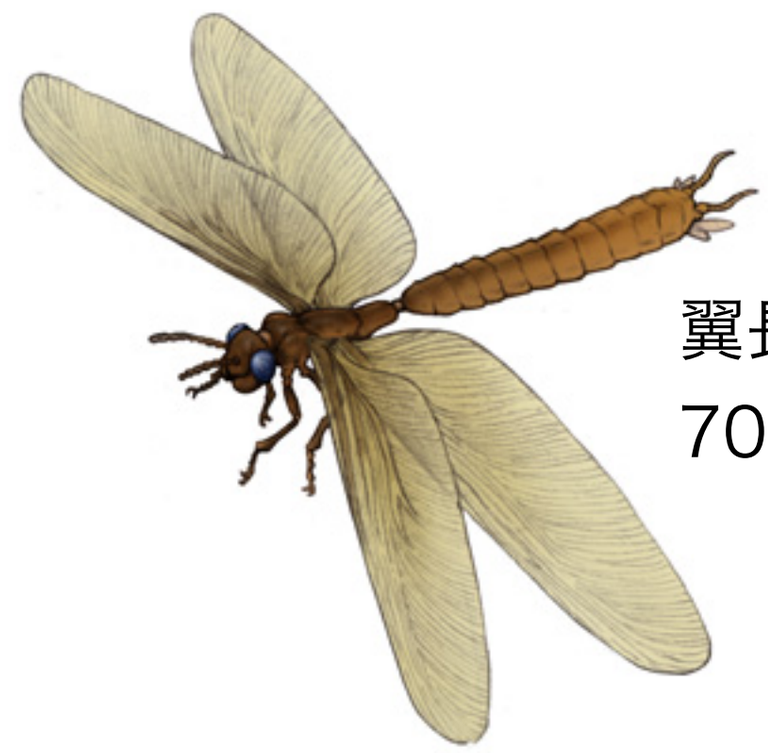
1億3000万年の恐怖！！

恐怖は終わらない
生命トラウマに？

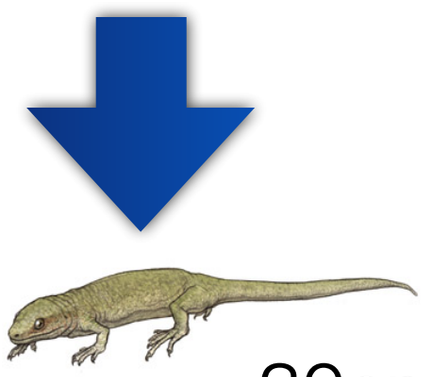


2mのムカデ



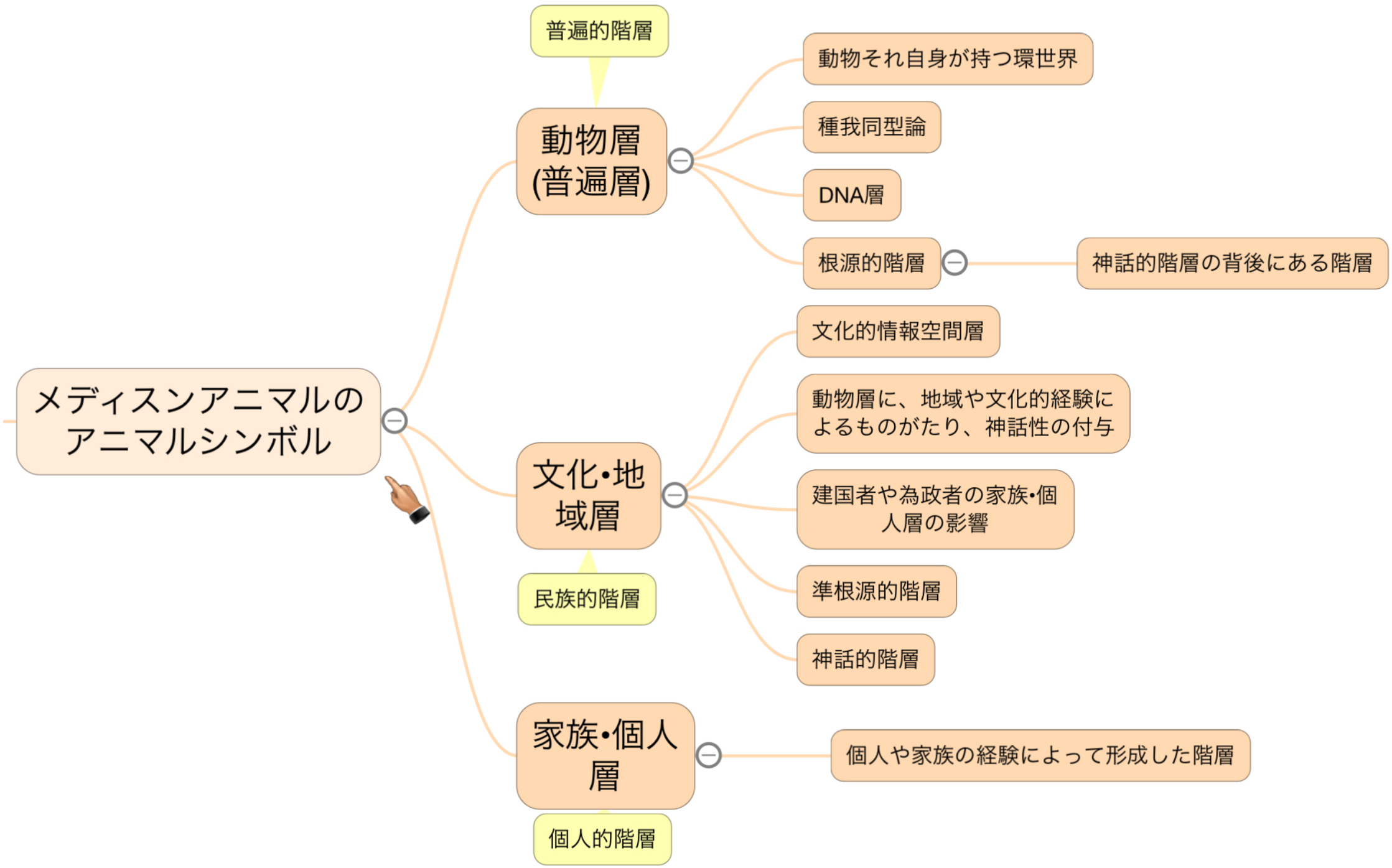


翼長
70cmのトンボ



20cmのトカゲ

アニマルメディスンの階層



蟲師の世界

「蟲師」を生業とする主人公「ギンコ」が、
様々な「蟲」によって引き起こされる事象、
怪異に対峙していく物語。

蟲師の世界

蟲師（むしし）
蟲に関するあらゆる事象を取り扱う、蟲専門の医者、研究者。旅をしながら仕事をするものと、定住し仕事をする者がいる。基本的に個人営業だが、蟲師間での情報交換など横の繋がりはある。たとえ蟲師であっても劇中ではまず怪異の原因である「蟲」を探し出し、研究しながら解決策を模索することのほうが多い。

ワタリ
蟲が見えるがために、住んでいた場所を追い出された者達が最後に行き着く集団。光脈を追って常に移動しており、行く先々で集めた光脈筋に関する情報や蟲に関する噂を売る事を生業としている。ゆえに蟲師とは繋がりが深い。

妖質（ようしつ）
五感以外のものを感じる感覚を補うもの。量の多寡はあっても誰もが持つ。妖質の多い者は蟲が見える。しかしながら通常は必要ない感覚であるため、人によっては眠っていたり、突然覚醒することもあれば突然失うこともある。

もやしもんの世界

東京にあるとされる「某農業大学」に入学した、「菌」の存在を肉眼で視認できるという不思議な能力をもつ主人公・沢木惣右衛門直保をめぐる学園ドラマ。直保に見える菌は、デフォルメされたキャラクターとして描かれている。作中で菌たちがたびたび発する、「繁殖する」「発酵、腐敗させる」ことを意味するセリフ「かもす」（醸す）は、作品のシンボル的フレーズとなっている。。

針聞書の世界

針聞書とは、永禄11（1568）年10月11日、摂津の国（今でいう大阪府）の住人・茨木元行によって書かれた東洋医学書。中国から伝わっていた中国医学の「針灸」そして、虫の種類によって、どの様に針を打つかによって体内に居る「虫」の退治方法をまとめた医学書です。『針聞書』を研究する長野 仁氏（森ノ宮医療学園はりきゅうミュージアム研究員）によれば鍼灸史上、現存最古の鍼の流儀書である。

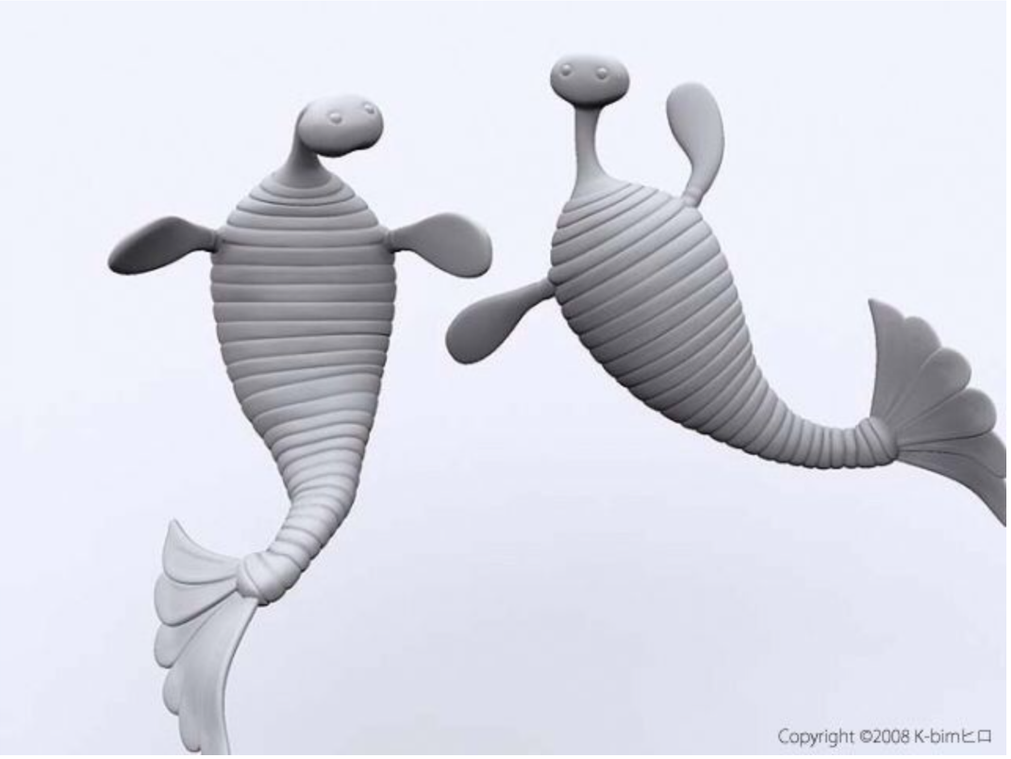
ANIMANDALA
ツツカにミル・ココロのカタチ・ジャイ竹氏展

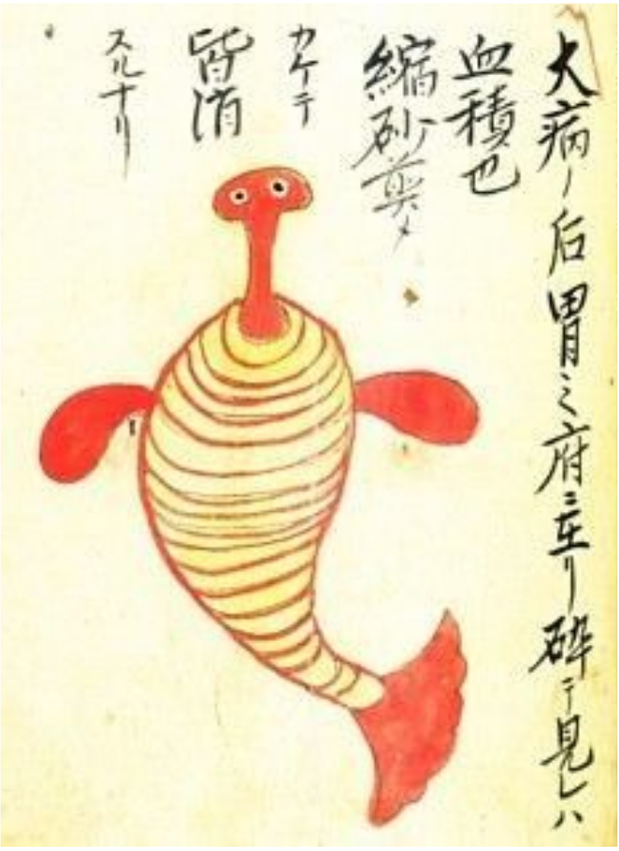
針聞書の世界

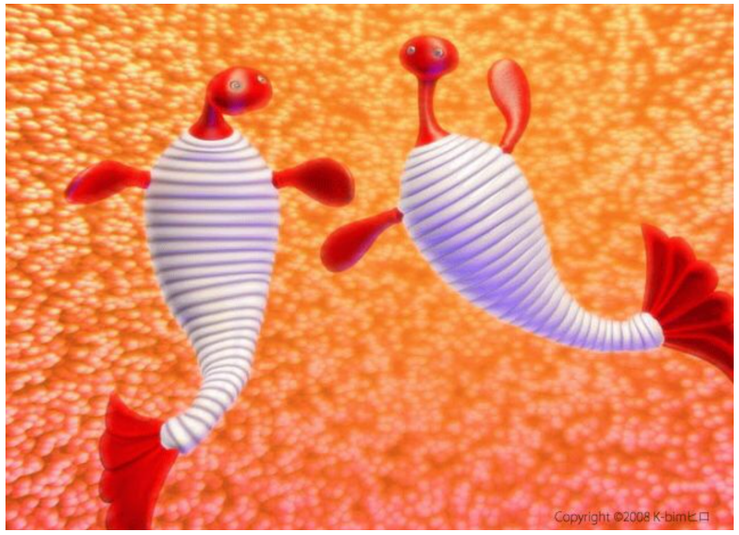
鍼立（鍼灸師）が一人前になるために知っておくべき基本をまとめたもので、４部構成から成る。内容は以下の４部にわかれています。

1. 鍼の基本的な打ち方、病気別の打ち方などを記した聞書
2. 鍼や灸を体のどこに施すのかを示した図
3. 体の中にいる虫の図とその治療法
4. 臓器や体内の解剖図

針聞書の世界


Copyright ©2008 K-bimヒロ




Copyright ©2008 K-bimヒロ

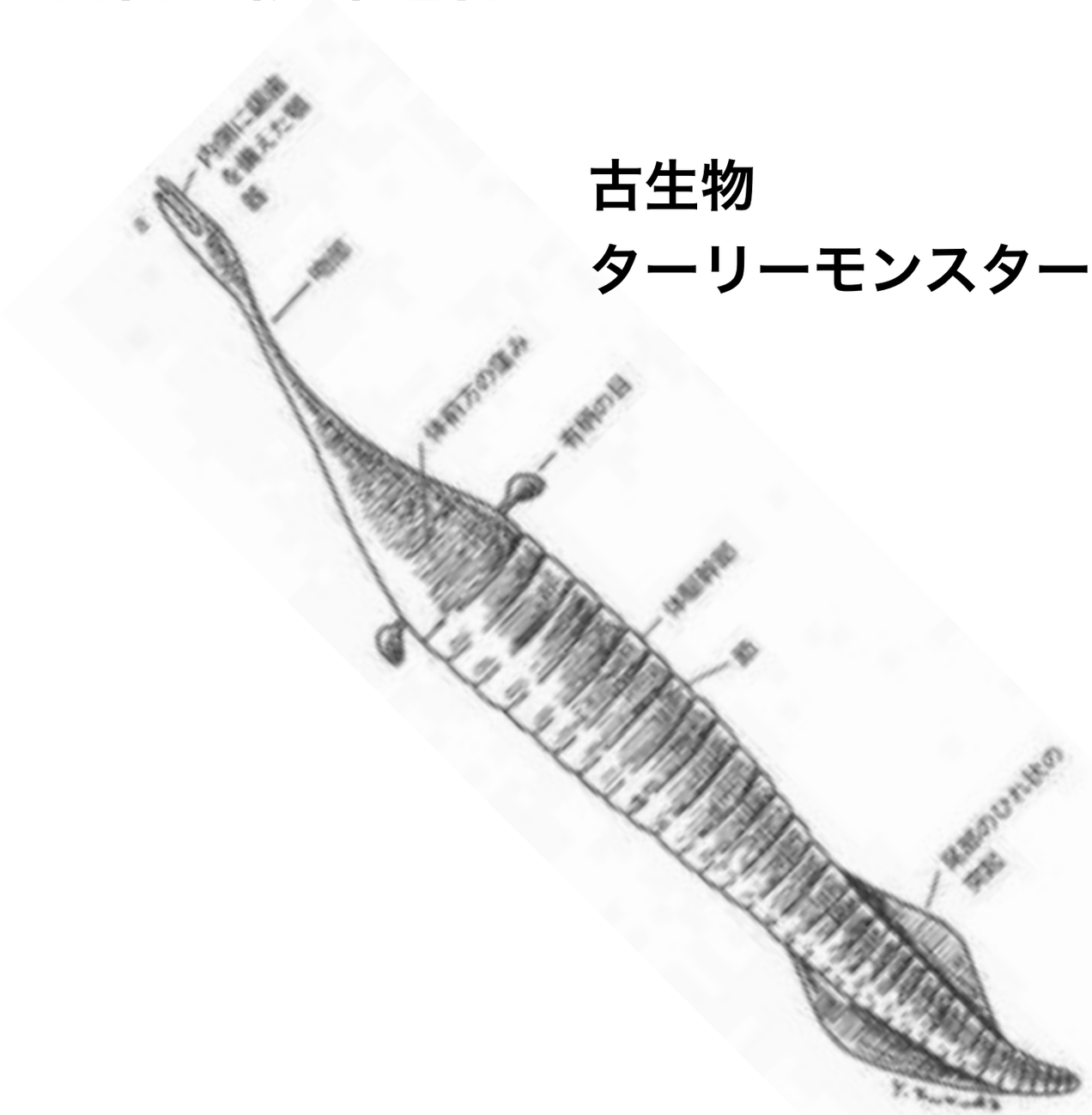
Copyright ©2008 K-bimヒロ

病、怪異の源泉としての悪霊=蟲=そして菌

もやしもんの主人公は近代の概念を持つので
知覚したものを'菌"と捉えた

オマケ・他人の空似

幻想と古代の修練進化



古生物
ターリーモンスター

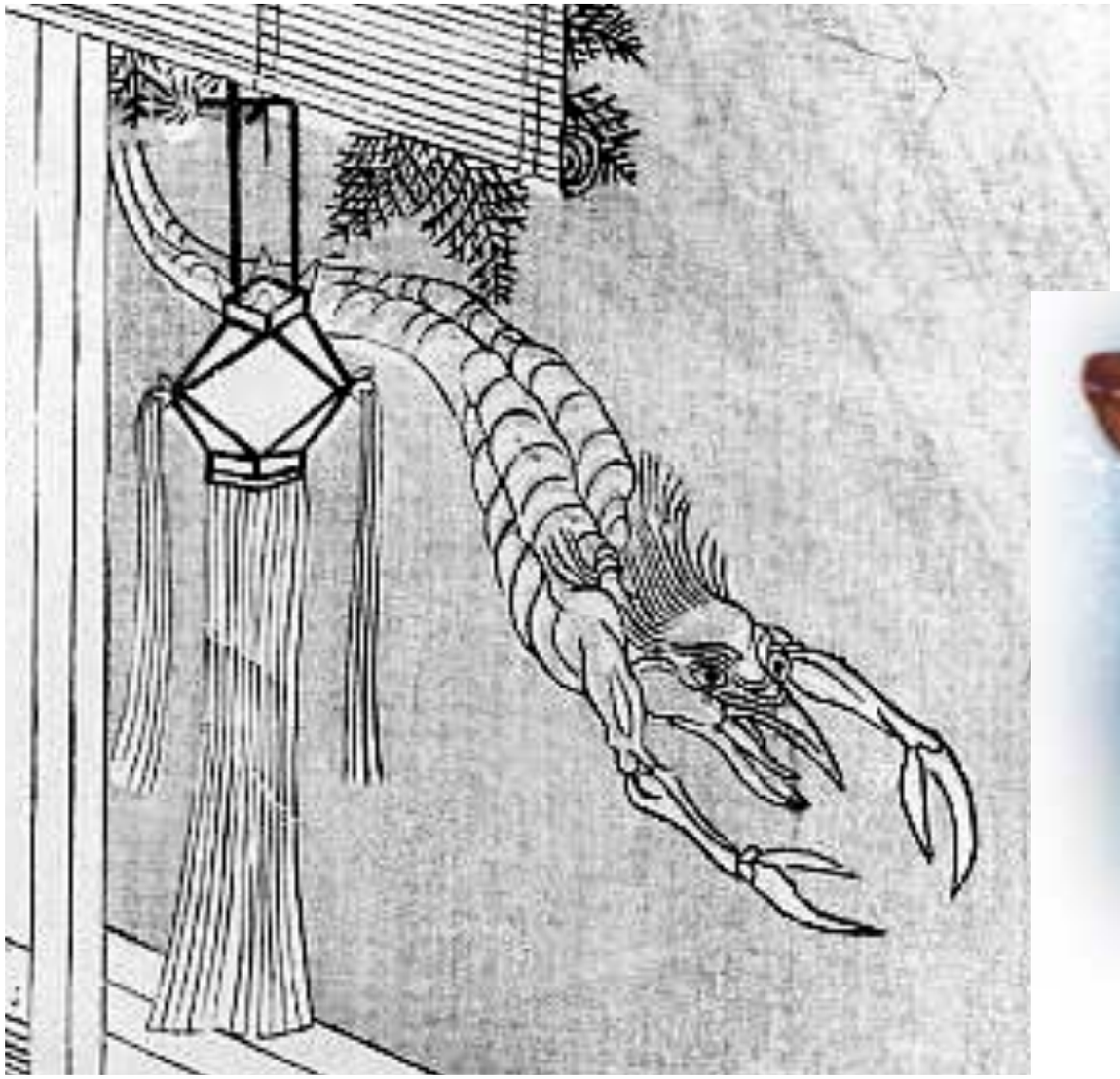
オマケ・他人の空似

幻想と古代の修練進化

古生物
首長竜

オマケ・他人の空似

幻想と古代の修練進化



古生物
ウミサソリ

オマケ・他人の空似

幻想と古代の修練進化

オマケ・他人の空似

幻想と古代の修練進化

人間の精神には古生物的フォルムが内在しています。
ですから、土偶が恐竜的だからと言って、人と恐竜が共存していた証拠とは言えないでしょう。
しかも、アカンバロの恐竜土偶は、新しい恐竜の復元とは似てません。
むしろ、その姿はゴジラです。